



◆当面する重点作業

1. 巨峰・パープル等は、夜温が低い日があったため満開が遅れた。シャインマスカットについては、生育が進んだため品種間での生育差が短くなっているため、管理作業が遅れないように努める。
今後、摘粒・摘房作業で良質な房を残し、摘粒作業が遅れないように計画的に進める。
2. 降雨が続く場合は、散布間隔を10日以上空けないように晴れ間を見ながら散布する。
今年は、乾燥が続いているため、うどんこ病の発生が心配される。
黒とう病、べと病が発生した場合は、被害房・葉は切除し肥料の袋等に入れ園外へ持ち出し処分する。
尚、べと病の発生源となる副梢及び遅れ花を適正に処理し新梢管理を徹底する。
3. **大房にならないように摘粒を正確に実施し、着房数の徹底も行って下さい。**
ナガノパープルは裂果防止、シャインマスカットは糖度向上、クイーンニーナは着色向上のため徹底する。
4. 棚の明るさを確保する。特に良果房の立枝を下げた園は留意する。
シャインマスカットは明るすぎて房が黄色くならないように副梢を利用する。
5. 降雨がない場合は定期的にかん水を行う。

◆第8回薬剤散布について

1. 散布時期：袋掛け前（前回散布10日以内）
2. 調合量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
スクレアフロアブル	50ml	晩腐病・褐斑病	前日
レーパスフロアブル	50ml	べと病	7日前

3. 散布量：10a当り ⇒ SS・動噴＝250ℓ
4. 留意事項

- ①袋掛け前に必ず散布する（散布時期が早まっても可）
- ②前回より散布間隔が空けないように散布する。降雨が多い場合は10日以上空けない。
- ③スリップス・カイガラムシが多い園では、コルト顆粒水和剤3,000倍（水1000ℓ当り33g・収穫前日・年3回以内）を加用散布してもよい。ただし、ブルームの溶脱に注意。
- ④巨峰を中心に、房の**汚れが目立つ時期**となる。散布量・細霧掛け・ノズルの点検・2度掛けの禁止などを徹底する。また、**展着剤は加用しない。**

◆袋かけについて

1. 果粉（ブルーム）の着生を良くするため、早目に袋かけを実施する。
特に種無しぶどうは摘粒・摘房作業を適期に実施し終了次第できるだけ早く袋かけを行う。
2. スリップスは袋の中に侵入するので口元を止め金でしっかり固定する。また、ロート状に開いていると雨水が入る。袋はスリップス防虫処理をしてあるので1年で使いきりとする。
3. 良好な房から袋かけを行い、予定の枚数が終了したら残りの房を摘房する方法がよい。
4. 房の長いものは粒数が多いので、袋かけの時に再調整する。
5. 昨年鳥害を受けた園は計画的に袋かけを行う。また、果実袋の上から「ぶどう用かさネット」を使用してもよい。ただしカサが小さいので日焼け防止対策も行う。

◆日焼け防止対策について

袋かけと梅雨の中休みや梅雨明け後の高温が重なると、日焼けの発生が心配されるので、日焼け防止対策を徹底する。

1. 異常高温時(気温33℃以上)または梅雨明け直後の高温時には袋かけを実施しない。

西日が強く当たる所、道路際・若木で棚面が明るい所などは特に注意する。

2. 高温時に袋かけをする場合は、袋の上から「日焼け防止カサ紙」(新聞紙・広告など)や

タイベック笠を活用する。

ワンタッチポリ傘は、強日照に対してやや弱い。

タイベック笠は反射率が高く温度上昇が少ない。なお固定にはホッチキスが必要。

3. 特に日焼けの発生しやすい場所は必ずカサ紙を使用する。

樹勢の弱い所、圃場外周で西日が強く当る所は特に注意する。

午前中に袋かけを行った場合は、昼食帰宅前に傘かけを行う。お昼で日焼けする。



◆苦土欠乏対策について (種無し・種あり共通)

枝の伸びが良い場合は、元葉の色がうすくなりやすいので施用して葉色を良くし、着色・糖度を向上させる。また、欠乏症がしやすい短梢栽培では、土壌施用だけでなく、積極的に葉面散布を実施したい。

1. 土壌施用：水で分解しやすく流れやすいので、降雨後の施用とする。

施肥時期	肥料名	施肥量
7月上中旬	硫マグ25	2袋/10a当り

※葉の色が薄くなっている場合は、上記の施肥時期を待たずに実施する。

2. 葉面散布：袋掛け後の第9回目以降に加用散布する。

肥料名	散布量
グリーントップ70	500倍(水100ℓ当り200g)
リーフマグ	1,000倍(水100ℓ当り100g)

《栽培に関する営農技術員への問合》

徳武(篠ノ井西部):080-1202-0260 / 外谷(篠ノ井東部):080-8048-6602

※篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。

佐藤(信更):090-7179-9866

/ 伊藤(松代・情報担当):080-2239-6816

松橋(川中島):090-4816-6297

/ 根津(更北)080-1203-8576

松澤(若穂)080-1191-5166

/ 寺澤(全域・情報編集):080-1188-5229

吉澤(全域・情報監修):090-2543-0365

栽培に関する電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー(流通センター長兼務)松坂(篠ノ井西部)080-1188-4131

《栽培・販売に関する問合》各流通センター・共選所/営農販売部(本所):292-0930

《資材に関する問合》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課:299-3311

◆ぶどうの管理について

1. 新梢管理

品 種 名	結果枝の摘心等新梢管理の方法
種無し巨峰 (中梢剪定樹)	<p>棚面の明るさは種ありと同様に必要。混み合った暗い部分を順次整理する。水まわり期前はいったん休止し果房全体に色がまわった頃、混んでいる場合は再度実施する。</p> <p>新梢先端は水回り前（満開後35～40日後頃）に、基部から1.5～2mで摘心。先端部分のみ軽く摘心する。</p> <p>遅れた場合は7月下旬から8月上旬に実施する。</p> <p>副梢は、2回目のジベレリン処理以降1～2葉摘心を随時行う（水回り前は、一度に強い摘心をしない）</p> <p>孫枝は基部からかき取る。</p>
ピオーネ	<p>満開35～40日後頃（7月下旬頃の果粒軟化期前）に主枝間の中央部で一律摘心</p>
ナガノパープル	<p>満開20～35日後頃に新梢葉と先端副梢葉をあわせて15～17枚を目安に摘心</p> <p>副梢の発生旺盛なので、随時副梢や孫枝の管理（摘心）を行う</p>
シャインマスカット	<p>満開30日頃（7月中旬の果粒軟化期前）までに新梢葉と先端副梢葉をあわせて15～17枚を目安に摘心（果粒軟化直前の強い摘心は縮果症の発生を助長）</p> <p>また、副梢の整理は2回目ジベ処理後にも細目に行う。</p>
クイーンニーナ	<p>満開50日頃（8月上旬）に実施（着色前）</p> <p>直接日光が当たらないと着色しないタイプなので、他の品種よりも園地を明るめに管理する。</p> <p>特に着色期になったら園地を明るく保つ。</p>
クイーンルージュ®	<p>満開後30日頃（7月中旬の果粒軟化期前）に行う。</p> <p>強い摘心は縮果症の発生を助長する。</p> <p>開花時期はシャインマスカットとほぼ同時。</p> <p>開花前の摘心後に発生した副梢は、着房節（4～5節）まではかき取り、先端副梢は4枚程度、その他の副梢は2枚程度で摘心する。</p> <p>園内を常に風通し良く明るく保つことが必要であり、摘心作業はこまめに行う。</p>

2. 最終着果基準

品種名等	短梢・中梢栽培				
	房粒数 (粒)	短梢 着房基準 (1m両側合計)	中梢 1坪当り 着房基準	房数 (10a当り)	収量 kg (10a当り)
無核巨峰 (中梢)	35	—	10～12 房	3,750	1,500
ピオーネ	30	3新梢に2房 1mに6.7房	10房以内	2,800～ 3,000	1,500
ナガノパープル	30 以内	4新梢に3房 1mに7.5房	10～12 房	3,000	1,200
シャイン マスカット	35 若木 35～40	3新梢に2房 ～4新梢に3房 1mに7房前後	10房	3,000	1,500
クイーンニーナ	25	8新梢に5房 1mに6.25房	8～10房	2,400～ 2,600	1,200～ 1,300
クイーンルージュ®	35 大粒は30	8新梢に5房		2,400～ 2,800	1,200～ 1,400

3. 見直し摘房

袋掛後であっても、着色初めの色の付き方を確認し再調整を行う。

(種なし巨峰、ピオーネ、ナガノパープル、クイーンニーナ)

園全体の房にとび玉が鮮明に出れば、適正着果量。

園全体の房がボウッと色づき、とび玉が不明瞭な場合は、着果過多 → 直ちに摘房する！

ただしクイーンルージュ®の着色は、ボウッと全体的に着色が始まり濃くなっていく。

